

## I

以下の文章を読み、下記 A、B に答えよ。

中国における歴史叙述の標準的なスタイルは、司馬遷の『史記』によって確立された。それは a と呼ばれるもので、出来事を単純に年代順に配列するのではなく、君主の事績・君主以外の人物の事績・制度の沿革など、いくつかの部分に分けて全体を構成する点に特徴がある。『史記』の形式にならって次々と書かれた各王朝の歴史は、後に「正史」と総称されるようになる。ただし、b の『漢書』、陳寿の『三国志』などは、いずれも私人の著作であり、それらが書かれた時代には、他にも類似の史書が多く存在していた。皇帝の命によって過去の王朝の歴史を公式に編纂するようになるのは、南北朝時代からであるが、同一王朝の歴史が作りなおされることもあった。たとえば、『唐書』は、後晋時代にひとたび編纂されたが、不備が多いとして北宋時代に再度の編纂が行われた。今日では、前者は『旧唐書』、後者は『新唐書』と呼ばれ、どちらも正史と見なされている。

正史とは異なる形式の史書としては、北宋の司馬光が戦国時代から五代までを編年体で記した『資治通鑑』が名高い。その叙述には、君臣・華夷の区別を重視する f 論が反映されており、後世に大きな影響を与えた。南宋の g とその門人が著した『資治通鑑綱目』は、『資治通鑑』の解説書ともいえるものだが、三国時代について蜀漢を正統とするなど、司馬光の f 論をさらに発展させている。

中国の正史は、周辺世界ともさまざまな形で関わりをもっている。たとえば、中国北方の遊牧民の歴史は、現地に残された文字記録が乏しいため、主として正史の記述に基づいて研究せざるを得ない。ただし、ユーラシア西部におよぶ帝国を打ち立てたモンゴルに関しては、西アジアで著された『集史』などにも、豊富な情報が残されている。一方、漢字の浸透した地域では、正史に類する歴史書の編纂が見られた。高麗時代に編纂された『三国史記』はその例で、a を採用している。

時代が下ると、正史以外の史料が多く残されているため、歴史研究における正史の重要性は相対的に低下する。たとえば、清代に関しては、溥儀が紫禁城から退去した後、残されていた膨大な公文書の整理・公開が進み、研究に利用されている。

A 下記の問い 1～6 に対する最も適切な答えをイ～ニから一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

1 下線部 c に関する記述として、適切なものはどれか。

- イ 唐の節度使であった朱全忠が、唐を滅ぼして建国した。
- ロ 石敬瑭が契丹の支援を得て建国し、代償として燕雲十六州を割譲した。
- ハ 第 2 代皇帝の世宗（柴榮）は、契丹や南唐と戦って領土を拡大した。
- ニ 前王朝が汴州（開封）に国都を置いたのに対し、洛陽を国都とした。

2 下線部 d に際して中心的役割を果たした人物はどれか。

- イ 欧陽脩    ロ 顔真卿    ハ 韓愈    ニ 陸九淵

3 下線部 e は、王安石の新法に反対した勢力（旧法党）の代表者として知られるが、新法とそれをめぐる党争に関する記述として、適切なものはどれか。

- イ 新法の骨子は、人件費・軍事費の徹底的な削減による歳出切り詰めであり、職を失うことを恐れた官吏・軍人の多くが反対し、旧法党を形作った。
- ロ 新法の一つである募役法は、労役を強制的に割り当てることを止め、免役銭を出させて希望者を雇用するという内容であった。
- ハ 王安石の失脚後に政権を握った司馬光は、新法党を弾圧したものの、青苗法・均輸法・市易法などの主要な法は継承した。
- ニ 北宋末の徽宗の時代には、あらためて新法が徹底的に廃絶され、新法党の官僚が粛清された。

4 下線部 h に関する記述として、適切なものはどれか。

- イ イル＝ハン国のガザン＝ハンの命によって編纂が開始されたが、同国の滅亡後に完成し、マムルーク朝のスルタンに献上された。
- ロ 当時のイスラーム世界における共通語であったアラビア語で書かれている。
- ハ 叙述の形式や歴史解釈に、イブン＝ハルドゥーン『世界史序説』の影響が見られる。
- ニ モンゴル史だけでなく、中国史やフランク（ヨーロッパ）史を扱う部分もある。

5 下線部 i に関連する記述として、適切なものはどれか。

- イ 百済の復興をめざす勢力（後百済）が新羅を滅ぼして建国した。
- ロ 儒教を国教化し、仏教を弾圧した。
- ハ 科挙による文官の登用を行った。
- ニ 宋の磁器を模倣した染付（青花）が盛んに製作された。

6 下線部 j の原因となった政治情勢に関する記述として、適切なものはどれか。

- イ ドイツ・イギリス・日本など8カ国の連合軍が、義和団討伐のために北京に迫った。
- ロ 軍閥間の抗争の中で、旧清朝皇室に強硬な姿勢をとる馮玉祥らが北京政府の実権を握った。
- ハ 蒋介石の率いる国民革命軍が、北洋軍閥打倒をめざして北京に迫った。
- ニ 盧溝橋事件を契機として華北に侵攻した日本軍が、北京を占領した。

B 下記の問い1～4について、最も適切な答えを記述解答用紙に記せ。

- 1 空欄 a にあてはまる語句は何か。
- 2 空欄 b にあてはまる人名は何か。
- 3 空欄 f にあてはまる語句は何か。
- 4 空欄 g にあてはまる人名は何か。

## II

以下は、第二次世界大戦後のアジア諸地域が有した世界史上の特徴について論じたものの一部である。文章を読み、下記A、Bに答えよ。

第一の特徴は、政治的な脱植民地化、いわゆる植民地からの政治的独立が、東アジアと南アジアを中心に1940年代末までに達成された点である。その要因は、日本の敗戦による旧日本帝国の強制的解体・崩壊と、南アジアにおけるイギリスの性急な撤退、「権力の委譲」による1947年の b、c の独立、および d 領東インドにおける独立戦争での d の敗北とインドネシアの独立等、複合的である。第二次大戦、アジア太平洋戦争での戦闘・占領・戦時動員を通じた列強の植民地的秩序の崩壊は、アジア諸地域での戦間期からの民族運動<sup>e</sup>の勃興により促進され、世界史上でも稀にみる速さで政治的独立が達成された。

この早期の脱植民地化に対して、日本を除く欧米の旧宗主国は、影響力の温存と継続を図る手段として、新興独立諸国に対して経済援助を提供した。1950～60年代のアジアは、経済援助の供与をめぐる国際競争が展開された時代である。

第二の特徴は、世界的規模での東西冷戦の展開のなかで出現した、独自の国際政治秩序である「第三世界」、非同盟中立路線の主要な舞台になったのが、1950～60年代のアジア世界であった点である。冷戦が東アジア、東南アジアに波及するなかで、その周縁部として、相対的に独自の立場を維持したのが南アジア<sup>h</sup>地域であった。その立役者が、i と彼が追求した「非同盟中立」路線である。政治的に中立を表明した非同盟諸国は、経済外交の側面では経済援助を受け入れる対象国となった。従来別々の戦後史の文脈で語られてきた脱植民地化と冷戦が相互に結びつくのが、軍事援助を含めた開発援助政策である。

第三の特徴は、政治的独立を達成したアジア諸国による「貧困からの脱却」、経済的自立を求めた経済開発・工業化政策の追求である。開発を実現するために、東アジア・東南アジア諸地域において成立したのが、政府の経済への積極的介入を容認し、国家が強力な危機管理体制を構築する「開発主義<sup>j</sup>」である。それは、政府も国民も経済成長を最終目

標に掲げた成長イデオロギーであった。

(出典：秋田茂編著『アジアからみたグローバルヒストリー』2013年。一部改変)

A 下記の問い1～6について、最も適切な答えをイ～ニから一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

1 空欄 d に入るものはどれか。

イ フランス    口 ポルトガル    ハ ベルギー    ニ オランダ

2 下線部 e について、運動やそれを担った組織と、運動の起こった地域との組み合わせで誤っているものはどれか。

イ サレカット＝イスラーム、マラヤ    口 サティヤーグラハ、インド

ハ 三・一運動、朝鮮    ニ タキン党、ビルマ

3 下線部 f に関する記述のうち、誤りを含むものはどれか。

イ 東南アジアで植民地支配を受けずに独立国家としての地位を維持できたのは、タイのみである。

口 英領ビルマは、1948年に独立を達成したが、独立運動を指導したアウン＝サンはその翌年に暗殺された。

ハ ホー＝チ＝ミンはベトナム共産党を結成して民族運動を指導し、ベトナム民主共和国を建国した。その後インドシナ戦争でフランスと戦った。

ニ 東ティモールでは例外的にポルトガル支配が長引き、1975年に独立運動が高まったが、翌年インドネシアに併合を宣言され、2002年に正式に独立を達成した。

4 下線部 h について、冷戦のアジア地域への波及にかかわる出来事①～⑤を年代順に正しく記した組み合わせはどれか。

① ベトナム共和国建国    ② 東南アジア条約機構の結成    ③ 朝鮮戦争の勃発

④ 中華人民共和国の成立    ⑤ ジュネーヴ休戦協定

イ ①→④→③→⑤→②    口 ④→①→②→③→⑤    ハ ③→④→②→①→⑤    ニ ④→③→⑤→②→①

5 下線部 h に関与し、1950年代に在任したアメリカ大統領の組み合わせとして正しいものはどれか。

イ ローゼベルト、トルーマン    口 ケネディ、ニクソン

ハ トルーマン、アイゼンハワー    ニ アイゼンハワー、ケネディ

6 空欄 i は誰か。

イ ガンディー    口 ネルー    ハ ジンナー    ニ スカルノ

B 下記の問い1～4について、最も適切な答えを記述解答用紙に記せ。

1 下線部 a の国が、戦前から東南アジア支配の軍事拠点とし、日本の降伏後に復帰支配をした都市名を記せ。

2 空欄 b, c に入る国名を記せ。

3 下線部 g について、日本が戦後処理の一環として東南アジア諸国に対して二国間協定にもとづいて行い、結果として東南アジア諸国との経済的関係回復につながった措置は何か。漢字で記せ。

4 下線部 j について、アメリカと緊密な同盟関係を結びつつ、この政策方針で長期政権を維持したものの、独裁や腐敗が進んだため国民の支持を失い、1986年の人民革命でハワイに亡命した政治家の名を記せ。

### III

以下の文章を読み、下記 A, B に答えよ。

中世末から近世にかけてのヨーロッパでは、カトリック教会や神聖ローマ帝国が担ってきた普遍的な世界秩序が緩み、個別の権力単位が自己の支配領域を国境で囲い込み、対内的・対外的に独立的な行動を示すようになった。こうした権力単位を主権国家といい、<sup>a</sup>主権国家同士が互いに勢力を競い合う状態が生まれた。

主権国家の形成期には、<sup>b</sup>スペイン、フランス、イギリスなど比較的大きな諸国で、絶対王政と呼ばれる国王を中心とする強力な統治体制が誕生した。しかし絶対王政のもとでも、旧来の身分制度が残るとともに、さまざまな特権をもつ貴族や教会や都市などが <sup>c</sup>d 団体を形成し、一般民衆に対する国王の直接支配を制約していた。しかし絶対王政と

d 団体の関係は複雑だった。絶対王政と d 団体の関係は、常に対立し合う関係ではなく、ときどきの権力状況や利害状況によって変化した。絶対王政の形成期<sup>e</sup>には、国王は国内の統制と国力増大のために、d 団体の協力を必要とした。一般的な趨勢として、絶対王政が誕生する過程においては、王権と d 団体の関係は良好で、両者の協力関係が目立つが、やがて王権が磐石になるにしたがって、d 団体の特権に対する王権の統制や介入がしだいに厳しくなっていった。この王権と d 団体の対抗関係の結果しだいによって、その後の各国の政治体制が大きく異なることになった。たとえばイギリスでは、チャールズ1世の時代に始まった内戦<sup>f</sup>の際に、王権が議会で代表される d 団体に敗北したため、絶対王政は早い段階で頓挫し、その後の議会を中心とする政治体制が成立する条件が生まれた。これに対してフランスでは、王権によって d 団体の活動が抑えられ、ルイ13世の時代を最後に h が開かれなくなり、ルイ14世の時代に絶対王政は全盛期を迎えることになった。

一方、イギリスやフランスなど西欧諸国に比べ、絶対王政の開始が遅れたプロイセン<sup>j</sup>やオーストリア<sup>k</sup>やロシア<sup>l</sup>では、君主主導の「上からの近代化」が図られた。これを m 主義という。その改革の目的は、国家の力の増大にあり、そのための経済力・軍事力の拡大や、司法・行政・教育機能の効率化が目指された。しかしこれらの地域でも、やはり d 団体の抵抗は大きく、改革は m 君主の意図の通りには進まなかった。

A 下記の問い1～7について、最も適切な答えをイ～ニから一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

1 下線部 a に関する説明として誤っているのはどれか。

- イ レヒフェルトの戦いでアヴァール人を破ったオットー1世が、962年に教皇ヨハネス12世からローマ皇帝位を与えられたことが、帝国の始まりとされる。
- ロ ルクセンブルク家の皇帝カール4世は、1356年に「金印勅書」を發布して、選帝侯と呼ばれる7人の聖俗諸侯に皇帝選出の資格を限定した。
- ハ 後に皇帝となるベーメン王フェルディナント2世が、ベーメンに旧教を強制したことに対して、1618年に同地の新教徒たちが反乱を起こしたことが、三十年戦争勃発のきっかけといわれる。
- ニ ナポレオンがバイエルンなど西南ドイツ諸邦を結集し、ライン同盟を結成したことを機に、当時の皇帝フランツ2世が退位し、1806年に帝国は消滅した。

2 下線部 b が生まれる契機となった「イタリア戦争」の1559年の講和条約の結果、ハプスブルク家が領有することになったイタリアの地域はどこか。

- イ ヴェネツィア    ロ ジェノヴァ    ハ サヴォイア    ニ シチリア

3 下線部 c の君主フェリペ2世に関する説明として誤っているのはどれか。

- イ ハプスブルク家の王カルロス1世の後を継いで、スペイン王に即位した。
- ロ ポルトガル王家の断絶にともない、同君連合によってポルトガルを併合した。
- ハ オランダ独立戦争の際に、南部10州にユトレヒト同盟を結ばせ、分断を図った。
- ニ ギリシアのコリントス湾口沖の海戦で、オスマン帝国の艦隊を打ち破った。

4 下線部 f に関する説明として誤っているのはどれか。

- イ 王党派と戦った議会派のなかに、「ピューリタン」と呼ばれるカルヴァン派の信者が多数存在した。
- ロ スコットランドの反乱鎮圧のため召集された長期議会は、戦費調達のための新税の導入を拒否したため、国王によって強制解散させられた。
- ハ 独立派のクロムウェルが指揮する「鉄騎隊」と呼ばれる精鋭部隊が、マーストン＝ムーアの戦いで王党派の軍隊を打ち破った。
- ニ 議会派のなかの急進派であった水平（平等）派は、一般兵士の支持を得て、普通選挙による共和政を主張し、独立派と対立した。

5 空欄 h にあてはまるもっとも適切な語句は何か。

- イ 高等法院    ロ 全国三部会    ハ 地方三部会    ニ 国務会議

- 6 下線部 i の人物に関する①～④の出来事を年代順に並べた場合、正しいのはどれか。  
 ① コルベールの財務総監就任 ② フロンドの乱 ③ ピレネー条約の締結 ④ ナントの王令の廃止  
 イ ②→③→①→④    ロ ②→③→④→①    ハ ③→②→①→④    ニ ③→②→④→①
- 7 下線部 l の君主エカチェリーナ 2 世に関する説明として誤っているのはどれか。  
 イ ピョートル 3 世を僭称し、農奴解放を宣言したプガチョフの農民反乱を鎮圧した。  
 ロ ラクスマンを使節として日本へ送り、通商を求めたが、目的を達せられなかった。  
 ハ アメリカ独立戦争の際に、スウェーデンなどとともに武装中立同盟を結成した。  
 ニ 三次にわたるポーランド分割に参加し、ワルシャワを含む広範な領土を獲得した。

B 下記の問い 1～6 について、最も適切な答えを記述解答用紙に記せ。

- 1 空欄 d にあてはまる語句を漢字で記せ。
- 2 下線部 e のイギリスでは、地方大地主層が地方の政治・行政・司法に絶大な影響力を持つ無給の職に就いて、王権を支えていた。この職名を漢字で記せ。
- 3 下線部 g の宰相リシュリューによって創立され、言語・文化政策の一翼も担った学術団体の名は何か記せ。
- 4 下線部 j の国王フリードリヒ 2 世が 1740 年に著し、「君主は国家第一の僕」の言葉で知られる著作物の題名は何か記せ。
- 5 下線部 k の君主ヨーゼフ 2 世は、1781 年に「上からの近代化」の一環として、農民保護に関する法令の他に、もう一つの法令を発している。その法令の名を漢字で記せ。
- 6 空欄 m にあてはまる語句を漢字 4 文字で記せ。

#### IV

以下の文章を読み、下記 A、B に答えよ。

18 世紀末から 19 世紀におけるヨーロッパは、革命の理念に何度も揺さぶられた。その発端となったのが、アメリカ独立革命である。北アメリカの東海岸にあったイギリス領 13 植民地は、イギリス本国政府の課税・統治の強化に反発し、アメリカ独立戦争を開始した。アメリカ側は 1781 年にヨークタウンの戦いで決定的勝利をおさめ、1787 年にはアメリカ合衆国憲法が制定されるに至った。

大陸ヨーロッパでは、その直後にフランスで革命が発生し、王政が廃止されるに至った。その後、1814～15 年に開催されたウィーン会議において、フランスのタレーラン外相が提唱した c の原則が採用され、各国の政治秩序をフランス革命以前のものに戻すことが目指された。ウィーン会議ではさらに、ある特定の国家による支配を防ぐために、大国間の d による国際秩序の平和的な維持が追求された。しかし、フランスではその後さらに二度の革命が起き、王が亡命や退位を余儀なくされた。こうしたフランスにおける一連の革命は、他のヨーロッパ諸国に大きな影響を与えた。たとえば、1830 年の七月革命後は、同年に e が独立を宣言し、その翌年にイタリアで f が蜂起したほか、ドイツでも立憲政治を求める運動が各地で発生した。1848 年の二月革命後は、ウィーンやプロイセン各地で革命が起きた。

ヨーロッパにおける革命運動の広がり背景として、社会経済的な変化と政治思想の影響を挙げることができるだろう。社会経済的な変化としては、イギリスを先駆とする農業革命と産業革命が重要である。18 世紀のイギリスでは、1700 年にインド産の h の輸入禁止法が制定されたことを契機にその国産化が進み、i を燃料として安定的に大きな動力を得る装置が発明されたことにも後押しされ、技術革新が進展していた。さらに、農業革命に伴って起きた囲い込みによって多数の農民が都市に流入して工場労働者となったことから、産業革命が進展した。その結果、国王や貴族といった旧体制下の既得権益層とは異なる都市部の富裕層の力が増大したのである。同時に、劣悪な条件で労働に従事する労働者階級も増大し、急進的な革命の担い手として重要な役割を担うようになっていった。この点に鑑みれば、ヨーロッパ諸国の中で自由主義的な改革をいち早く実行したのがイギリスであったことは、社会経済的な変化の自然な帰結であったといえよう。

さらに、この時期にヨーロッパで発展した政治思想も大きな影響を及ぼした。18世紀には、フランスで啓蒙思想が発展し、その後のフランス革命の思想的な基礎となった。とくに、ルソーが1762年に著した『k 論』は、人民の一般意思に政治が従うべきことを説き、フランス革命に大きな影響を与えた。19世紀に入ると、深刻な労働問題、貧困問題を解消するために、l の廃止と、土地や機械といった m の共有を提唱する社会主義思想が登場し、その後の革命運動の思想的基礎となったのである。

A 下記の問い1～4について、最も適切な答えをイ～ニから一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

1 下線部 a に関する記述として、適切なものはどれか。

イ 13植民地は成立の経緯、宗派、産業構造などが似通っており、イギリスに対する反感を共有しやすい社会的背景があった。

ロ イギリス本国政府が1765年に印紙法で課税したことが植民地の反発を招いたが、本国政府はその後もこの法律を廃止せずに維持しつづけた。

ハ 1773年に発生したボストン茶会事件に対し、イギリス本国政府は、マサチューセッツ植民地の自治権を剥奪するなどの強硬な措置を取った。

ニ アメリカ独立戦争においてフランスがアメリカを支援したことが戦況に影響を与え、アメリカの独立が認められた1783年のパリ条約では、フランスがアメリカにミシシッピ川以西のルイジアナを譲渡した。

2 下線部 b に関する出来事①～④を年代順に正しく記した組み合わせはどれか。

① ヴァレンヌ逃亡事件                      ② 義勇兵と民衆によるテュイルリー宮殿襲撃（8月10日事件）

③ オーストリアに対する宣戦布告      ④ 国民公会による封建地代の無償廃止の決定

イ ①→②→③→④    ロ ①→③→②→④    ハ ④→①→②→③    ニ ④→①→③→②

3 空欄 e と f に入る語句の組み合わせとして適切なものはどれか。

イ e ギリシア    f カルボナリ

ロ e ギリシア    f 青年イタリア

ハ e ベルギー    f カルボナリ

ニ e ベルギー    f 青年イタリア

4 下線部 j に関連して、19世紀前半にイギリスで実現した自由主義改革の記述として、誤りを含むものはどれか。

イ ナポレオン戦争後は国産穀物価格の下落を防ぐために穀物法が制定されたが、マンチェスターを中心に反穀物法同盟が運動を展開した結果、同法は撤廃された。

ロ アイルランドの政治家が当選したにもかかわらず議席を認められなかった事件を契機に、カトリック教徒解放法が制定され、カトリック教徒も公職につけるようになった。

ハ 産業革命による都市人口の急増等によって生じた腐敗選挙区を廃止するため、選挙法が改正され、新興都市などへの議席割り当てや、中産階級の参政権獲得などが実現した。

ニ 労働者自身による組織運動が発展し、チャーティスト運動が展開された結果、団結禁止法の廃止、工場法の制定などが実現し、労働者の権利保護が進展した。

B 下記の問い1～4について、最も適切な答えを記述解答用紙に記せ。

1 空欄 c と d にあてはまる語句を、それぞれ漢字4文字で記せ。

2 下線部 g に関連して、農業革命をもたらした新農法（近代農法）の特徴を40字以内で記せ。句読点も1字と数える。

3 空欄 h と i にあてはまる語句を、それぞれ漢字で記せ。

4 空欄 k ～ m にあてはまる語句を、それぞれ漢字4文字で記せ。

以下の文章を読み、下記A、Bに答えよ。

第一次世界大戦後のヨーロッパにおいて重要な国際問題の一つにドイツとフランスとの対立があった。フランス外交は、ドイツの軍事的復活に対する安全保障の確立に向けられてきた。しかし、ドイツの賠償問題に関する **a** 案の成立は、ヨーロッパ経済に一定の安定を生みだした。ロシア革命に続く諸国の革命運動の昂揚もこのころにはすでに退潮に向かい、世界資本主義はいわゆる「相対的安定」の時期を迎えた。このような情勢の下で、ドイツをめぐる国際関係の緊張も緩和され、ヴェルサイユ体制を補完するいくつかの国際協定が成立した。

イギリスの斡旋によって1925年2月9日、ドイツはラインに関する安全保障条約案を提案した。この案を基礎としてヨーロッパの安全保障問題を討議する国際会議が1925年10月5日からロカルノに開かれた。この会議の結果、10月16日にイギリス、フランス、ドイツなど5カ国間のラインラントの現状維持に関する相互保障条約、および、ドイツがフランスなど4カ国それぞれと締結した仲裁裁判条約などが成立した。翌26年ドイツの国際連盟加入によってロカルノ条約が発効すると、ここにドイツの報復の危険が除去されたかに見え、ヨーロッパの国際緊張はひとまず緩和され、「国際協調」が謳歌された。ヨーロッパ連邦論はこのような国際関係の一応の安定を基礎として生まれた幻想であった。

**a** 案の成立の頃から、ヴェルサイユ条約の枠内で独仏関係は一応の安定を迎えたかのように見えたが、ナチス＝ドイツの登場とともに独仏関係の様相は一変した。

ところが、ナチス政権の登場以来、イギリスの対独政策は概してドイツに妥協的であり、ヒトラーの再軍備宣言や英独海軍協定に対してもイギリスの金融資本（シティ）はむしろドイツの再軍備を支持する態度を示していた。以後、ミュンヘン会議において頂点に達するイギリスの対独政策は「**d** 政策」と呼ばれている。それは、1930年代の国際状況においては、**e** に敵対するドイツを資本主義体制の擁護者として期待する意識にも発していた。

1937年5月イギリスに成立した新たな内閣は、対独 **d** をその方針としていた。1938年2月20日、イギリスでは対独強硬論者として知られたイーデン外相が辞職した。ハリファクスがイーデンの後任外相となり、イギリスでは、首相と新外相が主導する対独 **d** 政策が推進された。

(出典：斉藤孝『戦間期国際政治史』岩波現代文庫、2015年より抜粋・一部改変)

A 下記の問い1～5について、最も適切な答えをイ～ニから一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

1 空欄 a に入る人名として正しいのは、どれか。

イ ヤング    ロ ウィルソン    ハ ケロッグ    ニ ドーズ

2 下線部 b の条約を締結した国に含まれないのは、どれか。

イ チェコスロヴァキア    ロ ベルギー    ハ スイス    ニ ポーランド

3 下線部 c に関して、国際連盟総会において、1929年9月にその構想を打ち上げたフランスの外相は、どれか。

イ ボアンカレ    ロ ブリアン    ハ エリオ    ニ シューマン

4 空欄 e に入るのは、どの国か。

イ 日本    ロ ソ連邦    ハ アメリカ合衆国    ニ フィンランド

5 下線部 f に関して、どの政党がどのように政権を担ったか。

イ 自由党の閣外支持に依存する労働党少数政権    ロ 労働党の首相による単独政権

ハ 保守党の首相による連立政権    ニ 労働党から事実上除名された首相による連立政権

B 下記の問い1、2に答えよ。答えは記述解答用紙に記せ。

1 空欄 d に入る漢字2文字は、なにか。

2 下線部 g の出来事以降、1938年9月末までの間に、ドイツがとった行動、および、ドイツへのイギリスの対応がどのように展開したか、160字以内で述べよ。句読点も1字と数える。

[以下余白]